

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名： 水溶性切削液(エマルジョン)

注文コード：32581324

会社名： 株式会社MonotaRO

所在地： 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階

担当者名：商品お問合せ窓口

電話番号：0120-443-509

FAX番号：0120-289-888

緊急連絡先：所在地と同じ

整理番号：M220222

2. 危険有害性の要約

GHS分類：



急性毒性（経口）	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
急性毒性（経皮）	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
急性毒性（吸入-ガス）	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
急性毒性（吸入-蒸気）	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
急性毒性（吸入-粉塵・ミスト）	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
皮膚腐食性・刺激性	区分2（シンボル：なし、注意喚起語：警告）
眼に対する重篤な損傷・刺激性	区分2B（シンボル：なし、注意喚起語：警告）
呼吸器感作性	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
皮膚感作性	区分1（シンボル：感嘆符、注意喚起語：警告）
生殖細胞変異原性	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
発がん性	分類対象外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
生殖毒性	区分2（シンボル：健康有害性、注意喚起語：警告）
特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）	区分3（気道刺激性）（シンボル：感嘆符、注意喚起語：警告）
	区分2（肝臓）（シンボル：健康有害性、注意喚起語：警告）
特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）	区分2（神経系）（シンボル：健康有害性、注意喚起語：警告）
吸引性呼吸器有害性	分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
水生環境有害性（急性）	区分3（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
水生環境有害性（慢性）	区分3（シンボル：なし、注意喚起語：なし）

GHSラベル要素：

シンボル：

注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

生殖能又は胎児への悪影響のおそれあり

皮膚刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれあり

眼刺激

遺伝性疾患のおそれの疑い

臓器（肝臓）の障害のおそれ

飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

長期的影響により水生生物に有害

注意書き：

「予防策」

- ・すべての安全注意（MSDS等）を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・容器を密封し、取り扱い時にはこぼれないように注意すること。
- ・熱、火花、高温体等の着火源から遠ざけること。禁煙。
- ・防爆型の電気機器、換気装置、照明機器、火花の出ない工具を使用すること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。取り扱う際は、導電性の良い金属容器を使用必ずアースをすること。
- ・保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用し、ミスト、蒸気の吸入をさけること。また飲み込まないこと。（飲み込むと下痢、嘔吐する。）
- ・この製品を使用する時に飲食しないこと。
- ・取り扱い後はよく手を洗うこと。
- ・空容器に圧力をかけないこと。（破裂の恐れがあるため）
- ・容器を溶接、加熱、穴開けまたは切断しないこと（残留物が爆発・発火する恐れがあるため）。
- ・環境への放出を避けること。

「対応」

- ・火災の場合、消火には粉末、泡または炭酸ガス消火器を使用すること。
- ・皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸水で洗うこと。汚染された衣服を再使用する場合には洗濯すること。
- ・皮膚刺激が生じた場合：医師の診断・手当てをうけること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師の診断・手当てを受けること。
- ・暴露あるいは暴露の懸念がある、又は気分が悪い場合：医師の診断・手当てを受けること
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- ・医師の診断が必要な場合：製品容器又はラベルを手元に用意すること。

「保管」

- ・直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
- ・容器を密閉し、保管場所に施錠すること。
- ・子供の手の届かない場所に保管すること。

「廃棄」

- ・内容物や容器を、都道府県の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する（不明な場合は購入先に相談の上処理すること）。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：

混合物

化学名又は一般名：

水溶性切削油

成分及び含有量：

潤滑油基油 70～80質量%

トリエタノールアミン 1～5質量%

その他企業秘密のため、明記しない。

化学式または構造式：

特定できない

官報公示整理番号（化審法・安衛法）

製品としての登録は行なっていない。

CAS No.:

企業秘密なので記載できない

UN No.:

非該当

危険有害成分：

化学物質管理促進法：

対象物ではない

労働安全衛生法 第57条 表示対象物

対象物ではない

労働安全衛生法 第57条の2 通知対象物

政令番号第168号 鉱油 70～80質量%

第57条の2 通知対象物

政令番号第381号 トリエタノールアミン 1～5質量%

毒物劇物取締法

対象物ではない

4. 応急措置

皮膚（又は髪）に付着した場合：

- ・ 直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸水で洗う。汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。

眼に入った場合：

- ・ 清浄な水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け最低15分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。

吸入した場合：

- 1 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。
- 2 呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣服をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行なう。

飲み込んだ場合：

- ・ 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。

予想される急性症状及び遅発性症状、
並びに最も重要な徴候及び症状：

- ・ 飲みこむと、下痢・嘔吐する可能性がある。
- ・ 眼に入ると炎症を起こす可能性がある。
- ・ 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。
- ・ ミストを吸入すると気分が悪くなることがある。
- ・ 現在のところ有用な情報なし。
- ・ 現在のところ有用な情報なし。

応急措置をする者の保護：

医師に対する特別な注意事項：

5. 火災時の措置

消火剤：

- 1 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。
- 2 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。
- 3 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。

使ってはならない消火剤：

- ・ 棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

火災時の特定危険有害性：

- 1 高温の金属表面等に接触したり、燃料管から漏洩した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。
- 2 燃焼の際は、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

特定の消火方法：

- 1 周囲の設備等に散水して冷却する。
- 2 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火を行なう者の保護：

- 1 消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合は、不透性の保護具及び手袋を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項
環境に対する注意事項：

除去方法：

二次災害の防止策

- ・ 作業の際には消火用保護具を着用する。
- 1 下水道・河川等に排出されないよう注意する。
- 2 海上の場合、薬剤を用いる場合には、国土交通省で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
- 1 全ての着火源を速やかに取り除き漏洩箇所の漏れを止める。
- 2 危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
- 3 少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収し、その後完全に拭き取る。
- 4 大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。
- 5 室内で漏出した場合は、窓・ドアを開け十分に換気を行なう。
- 1 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- 2 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する
- 3 下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないように注意する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い：

技術的対策：

注意事項：

安全取り扱い事項：

保管：

適切な保管条件：

適切な技術的対策：

注意事項：

安全な容器包装材料：

- 1 熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。
- 2 静電気対策を行い作業衣、靴等も導電性のものを用いる。
- 3 危険物が残存している機械設備等を修理又は加工する場合、安全な場所において危険物を完全に除去してから行なうこと。
- 4 皮膚に触れたり、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。
- 5 容器から取り出す時はポンプ等を使用すること。細管を用いて口で吸い上げないこと。
- 6 容器は必ず密閉すること。
- 1 原液はアルカリ性であり長時間又は繰り返し接触すると、皮膚炎を起こすことがある。
- 1 常温で取り扱うものとし、その際、水分、夾雑物の混入に注意する
- 2 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
- 1 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
- 2 危険物の表示をして保管する。
- ・ 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
- ・ ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。
- 1 容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。
- 2 容器は、溶接、加熱、穴開け又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火することがある。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：

- 1 ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
- 2 取り扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

- 管理濃度：・ 設定されていない（作業環境評価基準：労働省告示第26号、平成7年3月27日）
- 許容濃度：1 日本産業衛生学会（2006年度版）
勸告値なし
2 ACGIH（2004年度版）
勸告値なし
- 保護具：
- 呼吸器用の保護具：・ 通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する。
- 手の保護具：・ 長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。
- 眼の保護具：・ 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具：・ 長期間にわたり取扱う場合又は濡れる場合には耐油性の長袖作業着等を着用する。
- 適切な衛生対策：・ 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

9. 物理的及び化学的性質

- 形状：液体
- 色：褐色
- 臭い：微臭
- 沸点：データなし
- 凝固点：データなし
- 分解温度：データなし
- 発火点：データなし
- 引火点：180℃（COC）
- 爆発特性：
- 爆発限界：データなし
- 蒸気密度：データなし
- 密度：0.92 g/cm³（15℃）
- 溶解性：水に対する溶解性：可溶
- PH：9.1（10倍希釈液、水道水）

10. 安定性及び反応性

- 安定性：常温で暗所に貯蔵・保管されてた場合、安定である。
- 危険有害反応可能性：強酸化剤との接触を避ける。
- 避けるべき条件：ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
- 避けるべき材料：現在のところ有用な情報なし。
- 危険有害な分解生成物：現在のところ有用な情報なし。
- その他：現在のところ有用な情報なし。

11. 有害性情報

- 急性毒性：1 経口 データなし
2 経皮 データなし
3 吸入（ミスト） データなし

以下含有成分の有害性情報を記す（トリエタノールアミンとして）

- 皮膚腐食性／刺激性：・ ACGIH(7th, 2001)、SIDS(2005)、IARC77(2000)及びNTP TR518(2004)のヒトで高濃度暴露または反復暴露により皮膚刺激性が認められた
- 眼に対する重篤な損傷性／刺激性：・ ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th 1994)及びNTP TR518(2004)のウサギを用いた眼刺激性試験で刺激性が認められ、14日後に完全回復したとの記述から、区分2Bとした。

呼吸器感作性：	・ 情報がないため分類できない。
皮膚感作性：	・ ACGIH(7th, 2001)、IARC77(2000)及びNTP TR518(2004)のヒトでアレルギー性接触皮膚炎の報告があるとの記述から、区分1とした
生殖細胞変異原性：	・ 体細胞を用いる in vivo 変異原生試験出あるマウス赤血球を用いた小核試験で陰性の結果(IARC77, 2000及びNTP TR518, 2004)がある。
発がん性：	・ IARC77(2000)でグループ3に分類されていることから、区分外とした。
生殖毒性：	・ IARC77(2000)のラット及びマウスを用い2000mg/kg以上の濃度で13週間経皮投与した試験で精子及び雌の性周期に影響が認められなかったとの記述、NTP TR518(2004)の妊娠中のマウスに1125mg/kgを経口投与した試験で胎児/出生児に影響が認められなかったとの記述、並びにIARC77(2000)及びNTP TR518(2004)のラットに500mg/kg、マウスに2000mg/kgを交配前から授乳期間終了まで経皮投与した試験で繁殖能及び子に影響が認められなかった。
特定標的臓器／全身毒性(単回暴露)	・ NTP TR518(2004)のヒトへの影響として、蒸気が鼻を刺激する。
特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)	・ ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th, 1994)、IARC77(2000)及びNTP TR518(2004)に記載されたラット、マウスまたはモルモットを用いて経皮、経口または吸入暴露試験において、区分2のガイダンス値範囲の投与量では重大な毒性作用が認められなかった。
吸引性呼吸器有害性：	・ 有用な情報なし。

12. 環境影響情報

生体毒性：	現在のところ有用な情報なし。
残留性・分解性：	現在のところ有用な情報なし。
生体蓄積性：	現在のところ有用な情報なし。
土壤中の移動性：	現在のところ有用な情報なし。

以下含有成分の環境影響情を記す(トリタノルミン)

水生環境急性有害性	・ ヒメダカLC ₅₀ >1000mg/ℓ/48hr藻類(セネデスマス)の96時間ErC ₅₀ =169mg/ℓ (IUCLD, 2000)。
水生環境慢性有害性	・ 難分解性 分解度:0% by BOD(経産省既存化学物質安全性点検) 低濃縮性 濃縮倍率:<0.4~(濃度 2.5mg/ℓ)< 3.9~(濃度 0.25mg/ℓ)(経産省既存化学物質安全性点検) 難水溶性でなく(水溶解度=1000g/ℓ (PHYSPROP Database, 2005)) 急性毒性は低い。

13. 廃棄上の注意

- 1 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
- 2 投棄禁止。
- 3 埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃え殻については「産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。
- 4 燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼又は爆発によって他に危害又は損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。

14. 輸送上の注意

国際規制：	
国連番号	・ 非該当

品名	・ 非該当
国連分類	・ 国連の分類基準に該当せず。
容器等級	・ 非該当
海洋汚染物質	・ 非該当
国内規制：	
陸上	1. 消防法 危険物 第4類第3石油類 水溶性 2. 労働安全衛生法 通知対象物
海上	・ 船舶安全法 非危険物 個別輸送及びばら積み運送において
航空	・ 航空法 非危険物
輸送の特定の安全対策及び条件	・ 容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること ・ 運搬時の積み重ねは高さ3 m以下とする。 ・ その他関係法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

消防法	危険物 第4類第3石油類 水溶性
労働安全衛生法	通知対象物
海洋汚染防止法	油分排出規制（原則禁止）
化学物質管理促進法	非該当
下水道法	鉱油類排出規制（5 mg/ℓ）
水質汚濁防止法	油分排出規制（5 mg/ℓ）ノルマルヘキサン抽出物として
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制（拡散、流出の禁止）

16. その他の情報

参考資料

- (1) 許容濃度等の勧告、日本産業衛生学会(2006)
- (2) 米国産業衛生専門家会議(ACGIH)「TLVs and BELs 2004」(2004)
- (3) International Uniform Chemical Information Database (IUCLID)(2000)
- (4) IARC suppl.7
- (5) IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans (1987)
- (6) EC理事会指令「67/548/EEC」の付属書I「危険な物質リスト」
- (7) 米国産業衛生専門家会議：ACGIH documentation (2001)
- (8) IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans (1984)
- (9) WHO/IPCS：「環境保護クライテリア(EHC)」(1982)
- (10) WHO/IPCS：「ICSCカード(International Chemical Safety Cards)」(2001)

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として取扱う事業者提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。